

講義・演習科目	担当講師	講師紹介
修士キャリアデザイン (Master's Career Design)	大塚 浩	富士通株式会社 研究本部 先端融合技術研究所 主管研究員 2003年 東京工業大学大学院 理工学研究科 集積システム専攻 修士課程を修了後、株式会社富士通研究所に入社。現場データ分析を元にしたICTシステムの運用管理技術の研究開発に従事。事業部門にSEとして出向した経験を元に、現場での運用性を重視した基盤技術を開発・社内提供。2017年頃からはパブリックセクターを中心とする顧客業務効率化のための研究開発・事業化に従事。運用管理研究のためウェスタンオンタリオ大に留学して以降、海外企業との共同研究や現地視察調査、周辺機能開発のオフショア化等を行い、海外経験を生かして研究開発をリードしている。
	後藤 匠	株式会社Libry 共同創業者 / 代表取締役CEO 東京工業大学工学部社会工学科卒業。東京工業大学大学院イノベーションマネジメント研究科技術経営専攻中退。 小学5年生の時、途上国には家の仕事の手伝いがあった学校に通いたくても通えない子どもたちがいるということをテレビで知り、生まれた環境に左右されない「平和な世界」を志す。大学院在学中の2012年に、株式会社forEst(現:株式会社Libry)を学生起業。「一人ひとりが自分の可能性を最大限に発揮できる社会をつくる」をビジョンに掲げ、中高生向けのデジタル教材プラットフォーム「Libry」を開発・提供している。
修士キャリアデザイン演習 (Master's Career Design Practice)	新開 靖	エイムネクスト株式会社 取締役。東京工業大学大学院修了後、Andersen Consulting(現アクセンチュア)にてコンサルティングに従事。 2000年1月、コムテックに入社、コンサルティングGr.ジェネラルマネージャを経て、2001年エイムネクスト株式会社設立時より参画。 同社は、製造業・サービス業の顧客とその製品(サービス)及びプロセスに革新をもたらすことをミッションとし、現状分析と提案にとどまらず、製造業の技術的な業務内容の現場に入り、実施支援・展開している。
	金子 大介	株式会社みらい創造機構 共同創業者 / 取締役 東京工業大学大学院修士課程を修了後、経営コンサルティングファームに就職。戦略コンサルタントとして新規事業開発、新興国進出支援、事業戦略立案、国内外M&A等、幅広いテーマで活動。2014年、自らゼロから起業してVC(ベンチャーキャピタル)を立ち上げ、東京工業大学との連携協定を締結。大手金融機関に加えてアステラス製薬やデンソー、東急不動産を含めた13社から33億円をファンドレイズし、シードからレイターまで幅広くベンチャーへの投資・バリュアップを実施している。社外取締役も2社歴任。東京工業大学非常勤講師。
知識集約型キャリア開発 (Smart Business Career Development)	菅野 一義	独立行政法人日本貿易振興機構(ジェトロ)対日投資部次長。ハノーバー国際博覧会課、ベルリン事務所(2001.11-2005.12)、企画部、機械・環境産業部等を経て、デュッセルドルフ事務所(2012.12-2017.7)に駐在。帰国後、本部秘書室長を経て、2020年2月より現職。直近の海外駐在ではIndustrie4.0や現地のスタートアップ支援策の動向等を追った他、日本の中小中堅企業の海外展開支援やドイツ企業の対日進出サポート等を行った。
	秋山 吉宏	㈱サキコーポレーション 取締役副社長。松下電器産業に入社、以降AV機器、OA機器の研究開発に従事した後サキコーポレーションの設立に関与。自主開発した基板検査装置を主力商品として同社は、今や同分野で世界2位のシェアを確保する優良企業に成長。自身は専門の機械工学をコアとしながらもエレクトロニクス、ソフトウェアまで手がけ、経営にもたずさわるといふマルチな活躍で、企業を支えている。
	沖 博美	住友ベークライト株式会社 研究開発本部 R & D 企画推進部長。 数あるプラスチックの中で最も歴史の古いフェノール樹脂「ベークライト」を、1911年に日本で初めて工業化したことが、社名の由来。半導体封止用材料では世界トップのシェアを持つ。 1993年入社。半導体封止用材料等の研究開発に18年間従事。NEDOでの国プロマネジメント業務を経験した後、研究開発本部にて新規事業探索を推進。 二人の息子の母。
	原田 裕介	アーサー・ディリトル・ジャパン(ADL)マネージングパートナー日本代表。2017年より本社ボードメンバー。東工大大学院修了。米マサチューセッツ工科大学(MIT)経営大学院修了。同(MIT)技術政策大学院修了。情報機器メーカー(研究開発/業務改革/企画管理/技術戦略)を経て、ADLに参画。近年は、産業構造や社会環境の変化の潮流を踏まえた成長戦略の策定、イノベーションを継続的に創出する経営体制の構築等、戦略からトランスフォーメーションまでの一貫した支援に従事。経済同友会会員、経済産業省技術経営プログラム企画検討委員等。講演、著書多数。
	鮫島 正洋	東京工業大学金属工学科卒業。 藤倉電線(現 ㈱フジクラ)にてエンジニア(電線材料の開発)、92年弁理士登録後、日本アイ・ビー・エム(現 ㈱日立)にて知的財産業務を経て99年弁護士登録。2004年内田・鮫島法律事務所を設立、現在に至る。 弁護士業に留まらず、知財戦略、知財マネジメント、知財政策など多方面に向けた発言を行い、その貢献に対して2012年知財功労賞受賞。 著書:「新・特許戦略ハンドブック」(商事法務2006)[編著]、「技術法務のススメ」(日本加除出版2014)[共著]、「知財戦略のススメ コモディティ化する時代に競争優位を築く」(日経BP2016)[共著]など。 「下町ロケット」に登場する神谷弁護士のモデル。
	浜田 高宏	K-Will 代表取締役社長。KDD株式会社(現KDDI)に入社後、同社研究所において画像圧縮、画像処理、画像評価の研究に従事。1999年8月に社内ベンチャー第1号として株式会社ケイティメディアウィルを設立。同社代表取締役社長に就任。
	山本 佳世子	日刊工業新聞社論説委員・編集局科学技術部編集委員。東京工業大学ほか非常勤講師。お茶の水女子大学理学部卒。工学修士(東京工業大学)。博士(学術・東京農工大学)。記者として活躍しながら社会人で博士号を取得。科学技術報道(化学、バイオなど)、業界ビジネス報道(化学業界、飲料業界)担当を経て、現在、大学・産学連携、文部科学行政を担当。産学連携学会:業績賞受賞(2011年度)。
	藤原 洋	日本の起業家・科学者。現在ブロードバンドタワーの代表取締役CEO。インターネット総合研究所の代表取締役も兼務。京都大学にて宇宙物理学の学士、東京大学にて工学の博士を取得。MPEG技術の標準化に大きな貢献を果たした。
	吉村 謙	Team Lab 取締役。徳島市出身。東京工業大学卒、東京工業大学大学院修士課程中退(知能システム工学専攻)。大学では、恐竜型2足歩行ロボットの開発を研究。00年の3月頃より、猪子、青木と共にセレクトウェアの研究を始める。00年12月有限会社チームラボ設立、取締役に就任。主に、大型開発のマネージメントを担当。
	青木 雅博	株式会社日立製作所 理事 1989年 東京工業大学大学院理工学研究科 化学電気電子工学専攻修士課程修了 1999年 東京工業大学工学部電気電子工科学士号取得 1989年 株式会社日立製作所入社、中央研究所にて大学研究室で学んだ光通信用半導体レーザーの実用化研究に従事。 今日のITインフラを支える光通信ネットワーク(通信速度600Mbpsから100Gbps)の構築に貢献 2016年 技術研究所(テクノロジーイノベーションセンター)所長として素材、電機、機械、エネルギー、自動車、IT、制御、他 日立のR&Dの全領域を管掌 2019年 未来投資本部にてデジタルソリューションの事業創生を開始ベンチャーと連携し脱炭素化を加速する環境電力ソリューション事業を推進中
特論 社会・ビジネスのルールと倫理 (Advanced Course on Social and Business Rules and Ethics) 社会・ビジネスのルールと倫理 (Social and Business Rules and Ethics)	菅生 繁男	国立研究開発法人 産業技術総合研究所イノベーション推進本部知財オフィサー。東京工業大学大学院電子物理学専攻にて学位取得後、日本電気株式会社中央研究所にて主に光デバイスに関して基礎研究分野から事業化までの幅広い研究開発、及び研究開発マネジメントに従事。また、その後、同所のチーフパテントオフィサーとして研究戦略と知財戦略の一体化施策を推進した。現在、国立研究開発法人 産業技術総合研究所に在籍し、研究成果の社会への「橋渡し」に向けた知財戦略を推進している。
	西尾 拓	ライオン株式会社 国際事業本部 生産統括部長 1990年 東京工業大学大学院 総合理工学研究科 化学環境工学専攻 修士課程を修了後、ライオン株式会社へ入社 植物原料由来の界面活性剤製造プロセスの開発と海外工場の設計・新プラント立上げを主導で完遂。 粉末洗剤・液体洗剤・歯磨・薬品関連の製造プロセス開発により数多くの製品を市場導入。 2006年 山形大学大学院 理工学研究科 物質生産工学専攻 博士課程後期課程修了し、工学博士取得 2009年 新しい通気攪拌技術の開発と工業化の功績から 化学工学会「技術賞」受賞 2016年 埼玉大学工学部 応用化学科 非常勤講師で「ベストレクチャー賞」受賞 2018年 これまでの化学工学分野の実績および産学連携活動が認められ化学工学会「フォロー」取得 入社2年目でライオン千葉工場メタノール蒸留塔の爆発事故を経験し、本質安全を追求した新プロセスを開発。 これまで多くの生産現場トラブル解決に従事し、プロセス安全および対策について多くの経験を持つ。
Global Career Development Literacy (グローバルキャリア開発リテラシー)	Yoshizumi SASAKI	Yoshizumi Sasaki acquired his master degree in chemical engineering from Tokyo Institute of Technology in 1985, followed by starting his carrier at Sumitomo Chemical Co., Ltd., in short "Sumitomo," as a process engineer. While he was a process engineer and a manager, he participated in several oversea projects in Singapore, Japan, and the US.  In 2004, he was assigned to Rabigh project in Saudi Arabia, which was one of the mega-projects to develop a world-scale integrated refinery and petrochemicals complex. Currently, He is working at Tokyo head office as a Managing Executive Officer in the petrochemicals and plastics sector.  These diversified work experiences have taught him various lessons learned that the Japanese and non-Japanese people working for Japanese companies should consider.
	Naoko KASAI	Naoko Kasai received her master's degree in management organization theory from Lancaster University Management School in the UK. She worked for a Japanese company (ORIX), foreign investment banks (Barclays, JP Morgan, Macquarie), as a global investor relations specialist, and then, she established an HR training and development company. Moreover, she gained working experience as a strategic consultant in London. Following the domestic and international working experiences above, she joined the Tokyo Institute of Technology as a specially-appointed mentor at the academy for global leadership programs, and contributed to planning and implementing innovative student support services for Master's and Doctoral students. Until this March she was a professional career advisor responsible mainly for international students, assisting them to create career planning both inside and outside of Japan. In addition to being a part-time lecturer, she is now actively involved in the organization to enhance the power of CQ (Cultural Intelligence) and a corporate partner of Hofstead Insight Finland / Japan.

<b>研究と社会貢献</b> (Social Contributions through Research)	村上 朋子	92年東京大学大学院工学系研究科原子力工学専攻修士修了。同年、日本原子力発電に入社し、高速炉開発や既設炉安全審査等の業務に従事。2004年に慶応義塾大学大学院経営管理研究科修士修了、経営学修士取得。05年より日本エネルギー経済研究所勤務、07年より原子力グループマネージャー。国内外の原子力政策・技術開発動向分析とともに、施策立案者や企業戦略立案者に向けた提言も行っている。
<b>博士キャリアデザイン</b> (Doctoral Career Design)	小川 雅	工学院大学 工学部 機械システム工学科 准教授。 東京工業大学大学院 理工学研究科 機械制御システム専攻にて博士(工学)の学位取得後、 ニューヨーク州立大学ストーニブルック校のポスドク研究員として非破壊評価手法の研究に従事し、 横浜国立大学助教、工学院大学助教を経て、現職に至る。 専門は逆問題、材料力学、構造物の余寿命予測のための非破壊評価手法を発明し、 オックスフォード大学をはじめ、重工業メーカーを中心に共同研究を実施している。 また、社会の安心・安全を実現するために、力学的なアプローチだけでなく、 西田哲学に基づく創造性の講義を展開している。例えば、AI(人工知能)と人間の基本構造の違いを論じている。
<b>Strategies for Balancing Career, Personality and Lifestyle</b> (キャリア、パーソナリティ、ライフスタイルのバランス戦略)	Masaaki Maeda	Masaaki Maeda is currently a Strategic Advisor at Asurion. Prior to Asurion, he served as President & CEO of NTT DOCOMO USA, a wholly-owned subsidiary of NTT DOCOMO. He began his career in the Japanese telecommunications industry in 1983 at the Engineering Bureau of Nippon Telegraph and Telephone Public Corporation, which was privatized in 1985 and became NTT. In March 1994, he moved to NTT DOCOMO, the mobile arm of NTT, and held a series of senior positions in network planning, human resource management, corporate affairs, and mobile multimedia services. In July 2002, he was assigned to NTT DOCOMO USA in New York to lead the company's business development activities in the U.S. He holds bachelor and master's degrees in electrical engineering from the Tokyo Institute of Technology. In addition, he received an MBA from MIT's Sloan School of Management in June 2002.
	Yasuhisa Ichihashi	Dr. Yasuhisa Ichihashi received his Ph. D. degree from University Karlsruhe in 2007. He received his M. S degree in applied chemistry from Osaka University in 2001. He has around 20 years' experience in R&D and technical services in the chemicals and polymers industry in Japan and Europe. He used to work for Hitachi Chemical Co., Ltd., in Japan and Forschungszentrum Karlsruhe GmbH in Germany. Since 2008, he has been working for Asahi Kasei Corporation, including Asahi Kasei Europe GmbH in Germany over 3 years. He serves as a part-time lecturer for Strategy for Balancing Career, Personality and Lifestyle at the Tokyo Institute of Technology. His technical experiences include fundamental research, products development, marketing, and customer support in the field of photoresist, optical materials, and engineering plastics.
<b>ALP研修基礎</b> (ALP Introduction)	小泉 周	自然科学研究機構・研究力強化推進本部・特任教授(総括URA)。 慶應義塾大学医学部卒業。医師、医学博士。脳神経科学、とくに網膜の視覚生理学研究に従事。 ハーバード大学医学部研究員ののち、自然科学研究機構生理学研究所准教授(広報担当)を経て、現職。 専門は、網膜視覚生理学のほか、科学コミュニケーション、研究力分析、研究マネジメントなど多岐にわたる。 2009-2011年に、文部科学省研究振興局学術調査官。科学研究費補助金業務などに携わる。 2013年より現職。
	藤井 健視	国立研究開発法人科学技術振興機構(JST) 科学技術イノベーション人材育成部に所属。現在部長として勤務。 JSTでは基礎研究ならびに産学連携のプログラム運営を主に担当し、競争的資金に採択されたプロジェクトのマネジメントを行う部署を歴任する。 H29~R1年度に東京工業大学の研究・産学連携本部プロジェクト研究推進部門のURA(部門長)として出向。 専門分野はライフサイエンス(法医学、細胞生物学)。
<b>ALP研修 I(ティーチング)</b> (ALP Practice I (Teaching Practice))	大浦 弘樹	東京理科大学 教育支援機構 教職教育センター 准教授 Ph.D. in Learning Sciences (University of Washington, 2015) 2017年4月より東京工業大学・教育革新センター・特任准教授、 2018年5月より同センター・准教授、2021年4月から現職。 専門は学習科学、教育工学、科学教育。 ICTを活用した授業設計および学習評価等の研究に従事。
<b>R&amp;D Activities of Global companies</b>	Yuki Shitanoki	Dr. Shitanoki received B.Eng., M.Eng., Ph.D. from Keio University in Material Science and M.B.A from McGill University. At DuPont Company, he is leading Asia Pacific commercial and technical organization as Regional Business Manager in an Electronics & Industrial department since 2020. Before the current role, he led new product and market development projects for global Semiconductor industry as Global Marketing Manager. In his early career, he engaged in open innovation projects in automobile and photovoltaic areas in Corporate R&D in Japan and then moved to a business unit for sales and marketing experiences.
	Yasushi Negishi	Yasushi Negishi is a Research Staff Member at IBM Research - Tokyo. He joined IBM Research - Tokyo in 1989 after obtaining his M.S. degree in information science from the Tokyo Institute of Technology, and belongs to the Systems & Strategy group in IBM Research - Tokyo now. He contributed to research and development of video-on-demand software, Network Attached Storage systems, CELL processor for PlayStation3, Blue Gene supercomputer, HPCS toolkit for the US PERCS project. Much of his work has been presented at major refereed conferences and in journals including INFOCOM, SC, Euro-Par, IPDPS, and TPDS. ( <a href="http://researcher.ibm.com/researcher/view.php?person=jp-NEGISHI">http://researcher.ibm.com/researcher/view.php?person=jp-NEGISHI</a> )
	Masanobu Fujioka	Masanobu Fujioka, Ph.D Vice President & Chief Technology Officer (CTO), Ericsson Japan. He joined Ericsson Japan in 1998 and assumed Director IMT-2000 Product Management, Director New Business and Technology etc., leading the R&D activities in Japan.
	Kazuyuki Ohmura	Joined YOKOGAWA Medical Systems(Predecessor of GE Healthcare Japan) in 1991. Continuously working for medical software development area. Initially worked as modality engineer and group manager(CT and MRI software engineering group), and then drove cross modality diagnostic solution project as Lean development project as engineering leader(like Lean Startup). As of today, working for collaboration research(Artificial Intelligence and Image processing areas) with customers in Research and Development Division.
	Atsushi Udagawa	Current position: Director, Corporate R&D Operations, 3M Japan Innovation Limited  Job experience: Joined in Sumitomo 3M (Currently, 3M Japan Innovation) in 1987. Experienced several Japan local positions including Chemist, Corporate Analytical Laboratory, Specialist, Light Fiber Project, and Tech Manager, Commercial Graphics Division, and Master Black Belt. From 2006, had global / regional responsibilities for 10 years, including 3M Commercial Graphics Global Laboratory Manager, 3M Asia Pacific Architectural Markets Business Development Manager.  Education: Tokyo Institute of Technology, Ph.D, Engineering, 1991, Department of Polymer Chemistry and Physics University of Tokyo, M.S., Engineering, 1987 and B.A., Engineering, 1985, Department of Chemistry
	Taisuke Oku	R&D Director, Singapore Innovation Centre, P&G International Operations 15+ years leading product innovation programs for Hair Care and Skin Care products for global consumers in P&G. 10 years managing diverse R&D talents to grow capabilities and to drive business results in Singapore Innovation Centre. Currently leading Hair Care R&D programs for India, Middle East and Africa regions.
	Manabu Yamanaka	Manabu(Manny) Yamanaka is Mini Hydraulic Excavator Global Engineering manager of Caterpillar as well as Japan local Leadership. He has joined Caterpillar Japan in 1993 as an associate engineer of Medium Wheel Loader design group. During his career at Caterpillar, he has held a variety of positions in engineering including international assignment to Caterpillar US in 2000's and 2010's for total 6 years. As a leader of global design team for Mini Hydraulic Excavator, Manny is leading the company's execution of a new product introduction for future models.
	Katsutoshi Ohtsuki	Katsutoshi Ohtsuki, Dr. Eng. is a Senior Program Manager at Software Technology Center Japan, Microsoft. He is working on spelling correction and query alteration techniques for a Web search engine, Bing. He has been working on natural language processing technologies for text input methods on Windows and Office. Before joining Microsoft, he was a researcher at NTT Laboratories on speech recognition technologies and applications.
	Motoya Anma	Dr. Motoya Anma is a Director of Customer Engineering and Technical Engagement, Corning Japan K.K. He joined R&D organization of Corning Japan in 1990 after graduated from Tokyo Institute of Technology, and engaged in development of glass substrates for display applications. He studied thermal characteristics of glass substrates and obtained doctoral degree from Tokyo Institute of Technology in 2000. He is currently managing application engineering for display glass substrates, and has long-year experiences in Corning's global projects involving R&D in Headquarters, regional commercial and technical organizations in Asia as well as engaging customers.
	Ken Kuriki	Ken Kuriki is a Director of Innovation and Sustainability at DSM Japan, and is leading three business clusters of DSM Innovation Center (DSM Advanced Solar, DSM Biomedical and DSM Bio-based Products and Services) and sustainability agenda in Japan. Earlier in his career he worked for GE Plastics and CABOT. He obtained a PhD degree in materials science from Keio University, and worked for MIT as a postdoctoral associate.

	Noritoshi Yoshiyama	<p>Senior Manager, Advanced Technologies, Cloud &amp; SW, CPSD</p> <p>EXPERIENCE:          Lenovo Japan, Senior Manager Jan 2013 – Present          International Assignment in North Carolina, USA July 2012 – Dec 2012          International Assignment in Beijing, China May 2011 – May 2012          Transferred to Lenovo Japan May 2005          Joined IBM Japan, Ltd. April 1991 – April 2005</p> <p>EDUCATION:          Tokyo Institute of Technology Apr 1989–Mar 1991          Master of Engineering in Mechanical and Control Engineering          Tokyo Institute of Technology Apr 1985–Mar 1989          Bachelor of Engineering in Mechanical and Control Engineering</p>
	Michiyo Ohshima	<p>Ms. Michiyo Ohshima is Head of Japan Portfolio and Project Management at Pfizer R&amp;D Japan. In this position, Ms. Ohshima leads the pan-Business Unit project management support, portfolio management and medical writing. Ms. Ohshima has over 25 years experience in the pharmaceutical and biotechnology industries, including project/ portfolio management across several therapeutic areas, and project management office. Ms. Ohshima holds an MBA.</p>
	Hitoshi Okuyama	<p>Completed the master degree at mechanical engineering, Tohoku University in 1992.          After joining ZEXEL Co., Ltd. in April of the same year, he engaged in the development of gasoline direct injection system for 8 years.          After that, he was in charge of engine system application during the three-year assignment in Germany.          After the merger, he became an employee of Bosch Corporation in July 2005.          After returning from Germany, after working in project management and sales, moved to system development department in 2009.          He is currently leading advanced development and mass production project of powertrain system as Customer Chief Engineer.</p>
科学者・技術者の倫理	寿楽 浩太	<p>東京電機大学工学部人間科学系教授。          2008年東京大学大学院学際情報学府博士課程単位取得満期退学。博士(学際情報学)。専門は科学技術社会学。原子力をはじめ、広く科学技術のリスクや失敗と社会の関係を探究。2008年東京大学大学院工学系研究科特任助教、2012年東京電機大学未来科学部人間科学系助教授、2017年同工学部人間科学系准教授を経て現職。東京大学在職中の2010-2011年、カリフォルニア大学バークレー校原子力工学部客員研究員。この間、一貫して理工系学生向け社会リテラシー教育に従事。</p>
	大西 勇喜謙	<p>総合研究大学院大学 講師          2015年3月 京都大学より博士号取得、同年4月より現職。2013年 日本科学哲学会より石本賞受賞、2013-14年度 フルブライト奨学金によりマイアミ大学滞在研究員。専門は科学哲学。</p>
Global Career Development Literacy (グローバルキャリア開発リテラシー)	Yoshizumi SASAKI	<p>Yoshizumi Sasaki acquired his master degree in chemical engineering from Tokyo Institute of Technology in 1985, followed by starting his carrier at Sumitomo Chemical Co., Ltd., in short "Sumitomo," as a process engineer. While he was a process engineer and a manager, he participated in several oversea projects in Singapore, Japan, and the US.</p> <p>In 2004, he was assigned to Rabigh project in Saudi Arabia, which was one of the mega-projects to develop a world-scale integrated refinery and petrochemicals complex. Currently, He is working at Tokyo head office as an executive officer in the petrochemicals and plastics sector.</p> <p>These diversified work experiences have taught him various lessons learned that the Japanese and non-Japanese people working for Japanese companies should consider.</p>
	Naoko KASAI	<p>Naoko Kasai received her master's degree in management organization theory from Lancaster University Management School in the UK. She worked for a Japanese company (ORIX), foreign investment banks (Barclays, JP Morgan, Macquarie), as a global investor relations specialist, and then, she established an HR training and development company. Moreover, she possessed working experience as a strategic consultant in London. After she had the above local and international working experiences, she joined the Tokyo Institute of Technology as a specially-appointed mentor on the academy for global leadership programs, and contributed to planning and organizing innovative student support services for master's and doctoral students. In addition to a part-time lecturer, she is currently a professional higher education career advisor, being responsible mainly for international students and assisting them to create career planning both inside/outside of Japan.</p>
ALP発展研修Ⅳ (ALP Advanced Practice Ⅳ)	柴田 利明	<p>東工大名誉教授および日本大学特任教授。          東京大学の学部、大学院修士、博士課程を修了。専門は素粒子・原子核物理学の実験。          大学院修了後、ドイツのハイデルベルク大学に就職した。          ハイデルベルク大学はドイツ最古の大学で、創立600年をすでに超えている。          ヨーロッパに約10年間滞在した後、日本に帰国して東工大の物理学の助教授、教授を合計25年間務めた。          科学の普及については、東工大の柴田研究室は多摩六都科学館で、10年間にわたり科学実験教室を合計36回開催した。この活動について、文部科学大臣表彰科学技術賞(理解増進部門)を受賞した。          この科学実験教室は、高校生、中学生、小学生を対象とする教室である。          東工大の4年生、大学院生が企画、準備して講師を務めるが、わかり易く説明するように東工大でリハーサルをするなどの指導をていねいに行った。          そのほか、日本物理学会副会長、東理理科教育賞審査員などとしても科学の普及に務めた。          東工大では、学部の学生が英語で口頭発表できるように指導することも、私の教育課題の1つであった。</p>

&